

Physics Challenge & International Physics Olympiad

全国物理
コンテスト

物理チャレンジと 国際物理オリンピック



国際物理オリンピック
2023年日本開催!



公益社団法人 物理オリンピック日本委員会

The Committee of Japan Physics Olympiad (JPhO)



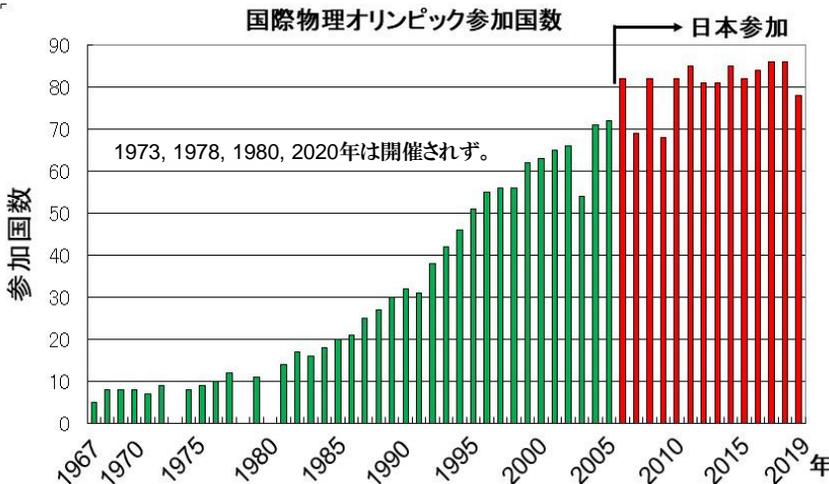
物理チャレンジは2005年から始められ、翌年の国際物理オリンピック (IPhO) での日本代表選手候補者の選考会も兼ねています。高校3年生はIPhO代表選手候補者にはなれませんが物理チャレンジには参加できます。中学生や小学生もチャレンジしています。2020年は新型コロナウイルス感染症のため応募者が激減しました。



回を追うごとに、応募者は全国各地から集まっています。現在までの参加者総数は1万7千人を超えています。

国際物理オリンピック

International Physics Olympiad



国際物理オリンピックは、おもに高校生のための国際的なコンテストです。1967年にポーランドで第1回大会が開催され、それ以後ほぼ毎年開催されています。各国で選抜された最大5名の代表選手が集まり、総勢四百数十名の選手で競います。また各国2名以上の役員も参加し、問題の翻訳と採点を担当します。日本は2006年の第37回大会から毎年代表選手役員団を派遣しています。コンテストでは、理論および実験試験をそれぞれ5時間かけて行います。また、開催国主催のさまざまなイベントや研究施設・名所旧跡の見学、ノーベル賞受賞者の講演会などが催され、選手どうし役員どうし国際的な交流を深めます。2023年には日本で国際物理オリンピックが開催される予定です。



2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、国際物理オリンピックが中止となりましたが、日本チームはヨーロッパ物理オリンピック・オンライン大会に参加しました。

国際物理オリンピックでは、選手のうち成績上位約8%に金メダル、次の約12%に銀メダル、さらに次の約18%に銅メダル、さらに次の約25%に入賞が授与されます。

物理チャレンジから国際物理オリンピックへ



7月 国際物理オリンピック 5名

世界トップレベルの高校生とメダルをかけて競う

4~7月 日本代表選手研修 5名

国際物理オリンピックに向けた実践トレーニング

3月 チャレンジ・ファイナル 約10名

国際物理オリンピック日本代表選手5名を決定する最終選考

9~翌年3月 日本代表候補者研修 約10名

国際物理オリンピック日本代表選手候補者に対する
通信添削および合宿研修



10~翌年2月 ファーストステップ研修
チャレンジ研修/ステップアップ研修

第2チャレンジまたは日本代表候補者
に選抜されなかった参加者に対する通信
添削による研修



8月 第2チャレンジ 100名

3泊4日の合宿形式での全国大会
理論・実験試験各5時間、Physics Live、研究所見学

6~7月 第1チャレンジ 約2000名

理論試験と実験レポートによる予選コンテスト

4~5月 参加申込

参加資格：20才未満で、大学などの
高等教育機関に在学していないこと

前年9~3月 プレチャレンジ

全国各地の高校や教員研
修所での説明・研修会

